

これまでのスポーツ観光マイスター 平成22年2月末現在

問い合わせ先
スポーツ観光推進室
谷岡(内線:27-116)



設置趣旨

世界的・全国的に活躍するスポーツ選手(元選手)を「スポーツ観光マイスター」として任命し、あらゆる機会を利用してスポーツを核とした国内旅行及び訪日旅行をPRしていただくことによりマイスターの世界的・全国的な知名度を活かした観光魅力を発信し、スポーツ観光推進の一層の機運醸成を図る。

任命方法等

- ・候補者については、自薦他薦を問わず幅広く受け付ける。
- ・選定委員(外部委員2名+観光庁長官)により選定し、観光庁長官による任命とし、長官自ら任命状を交付する。
- ・名誉職とし、活動に係る謝金等は支払わない。

現在のマイスター



寺田陽次郎(ル・マン)

ル・マン24現役最多出場記録を持ち、唯一の外国人理事を務める。モータースポーツの盛んな欧州での抜群の知名度を活かしての訪日観光PRを期待



フィリップ=トルシエ(サッカー)

元日本代表監督で現在、FC琉球総監督。サッカーの盛んな地域への知名度を活かして沖縄を中心とした日本の魅力PR及び国際大会誘致を期待。



小原工(トライアスロン)

アジア大会5回優勝で、シドニーオリンピックにも出場した実績をもつ。米子市観光協会に所属し、Dスポーツの観点からスポーツ観光を推進している。



朝日健太郎(ビーチバレー)

男子バレー日本代表として活躍し、ビーチバレーでは北京オリンピックに出場、日本ビーチバレー男子史上初の勝利を挙げる。日本の貴重な観光資源であるビーチを守る活動も推進中。



浦田聖子(ビーチバレー)

ビーチバレーでワールドツアー入賞、アジア大会に出場など日本女子のトップ選手として活躍。日本の貴重な観光資源であるビーチを守る活動も推進中。



塚原光男(体操競技)

オリンピック3大会で5個の金メダルを獲得。跳馬で「ツカハラ跳び」、鉄棒では「月面宙返り」を開発。世界的な知名度を活かしての訪日観光PRを期待。



篠宮龍三(フリーダイビング)

フリーダイビングの国内唯一のプロ選手として国際大会で活躍。アジア記録(世界4位)である115mの記録を。沖縄でのスクール活動や海洋保護等を訴えるプロジェクト活動も推進。



荻原健司(スキー)

元スキー競技者。元経産大臣政務官。ノルディック競技の中心選手として活躍し、92年・94年の冬季オリンピック2大会連続で金メダル受賞。現役時代の活躍から「キング・オブ・スキー」の異名を取る。



小林可夢偉(F1)

現役F1ドライバー。9歳でカートを始め、全日本カートチャンピオン、GP2アジアシリーズチャンピオンを経て、2009年F1デビュー。今年はザウバーのドライバーとしてフル参戦。非力なマシンながら印象的な走りを展開中。



船木和喜(スキー)

長野オリンピックではラージヒル個人、団体で金メダル。ノーマルヒルで銀メダルを獲得。その飛型は「世界一美しい」と言われ、世界選手権でも金メダル2個、銀メダル3個を獲得。ワールドカップでは日本人最多の16勝。1999年にプロのジャンプ選手として世界と戦うため独立。



大林素子(バレー)

元バレー全日本代表。日本バレーボール協会テクニカル委員。全日本の中心選手として活躍し、1995年にはセリエAと日本人初のプロ契約。1996年にアトランタ五輪に出場し、翌年に現役引退。日本人に馴染みの深いバレーを通じたスポーツ観光PRを期待。



ドラガン=ストイコビッチ(サッカー)

世界的なサッカープレイヤーであり、日本でも活躍し、現在は名古屋グランパスの監督として初のJリーグ制覇に導いた。サッカーを通じて人々に夢を与えると共に、我が国の持つ魅力を世界にPRすることに期待。